

# 国際版画 美術館

## 2002年度新収蔵作品展

### 1月5日～2月16日



昨年度後半から今年度前半にかけて、新たに同館に収蔵された作品から50点をご紹介します。

版画の歴史は千年以上に及びます。祈りを込めて仏の姿を捺した素朴な仏教版画や色鮮やかな浮世絵、髪の手よりも細い線を彫り込んだ銅版画や巨大な画面の現代版画。版画の世界はまさに百花繚乱です。

本展では、石井柏亭・坂本繁二郎らによる「日本風景版画集」、高い完成度を見せるデューラーの作品、愛らしい19世紀の挿絵本等パラエティに富んだコレクションの一端をご覧ください。

『民間之図像』より「秦瓊・敬徳」(しんけい・けいとく) 1926年 木版 手彩色 : 本書は中国で正月に飾る「年画」の研究書で、多くの作品が入れられています。この作品は家の門や扉に貼ると悪霊悪鬼から家族を守ってくれると信じられていた「門神(もんしん)」を描いたものです。唐時代に実在した武将の姿だといわれています。

休館日 月曜日  
1月13日(祝日)は開館、翌14日休館

開館時間 平日 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
土・日・祝日 午前10時～午後5時30分(入館は午後5時まで)

会場 第2企画展示室  
観覧は無料です。

国際版画美術館 ☎ 726・2771

坂本繁二郎 1882～1969 日本風景版画集『筑紫之部』より 大正7年(1918年) 木版  
「馬」をモチーフとした油彩で知られる画家です。この作品は出身地である九州の風景を、静寂で神秘的に描いた独創的なスタイルの木版画です。



アルブレヒト・デューラー 1471～1528 「三日月上の聖母子」 木版 1511年刊  
針のように細い線としっかりしたデッサンによって聖母子の神々しい様子が巧みに表現されています。ドイツの重要な画家デューラーの技量が見える作品です。



アメデ・ヴァラン 1818～1883 『蝶』より 1852年刊 銅版 手彩色 : ヴァランは本の挿絵のために描かれた原画をもとに、版を彫る仕事をしていました。しかし、この作品では原画も彼が描いています。優美な蝶たちが繊細な線で描かれたフランスの挿絵本です。



戸張孤雁 1881～1927 「玉乗り」 大正3年(1914年) 木版  
は大正時代に活躍した彫刻家・版画家です。この作品は当時、浅草寺境内で催されていた曲芸の様子を、浮世絵的手法を取り入れて制作した彼の代表作です。

